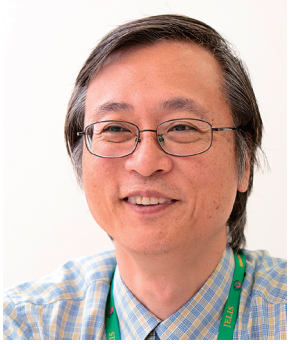
JSPCCS
Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery
NEWS LETTER
April No. 1 2015
2015年4月10日発行

Contents

理事長あいさつ…… 1
編集委員長あいさつ…… 2
編集委員紹介…… 3
学術集会第3報…… 4
学会予定・分科会予定・専門医関連…… 7
事務局からのお知らせ…… 8
日本小児循環器学会雑誌第31巻第1-2号…… 9

理事長あいさつ

新たな50年に向かって



日本小児循環器学会理事長
安河内　聰

1985年に第1巻発行以来2014年第6号まで30年間に156巻の印刷媒体の日本小児循環器学会雑誌が発行されてきましたが、2015年からはついに印刷媒体から完全電子版へと発行形式が変わることになりました。本号は完全電子版の日本小児循環器学会雑誌として最初の記念すべき発行となります。

小児循環器学が日本で始まってから50年、診断できなかった先天性心疾患がより正確に診断されるようになり、治療できなかった先天性心疾患の手術やカテーテルでの治療ができるようになり、多くの病気を持つこども達が未来という時間を持てるようになりました。毎日病気で苦しむこども達をなんとかして助けることができないか、ベッドサイドやベンチサイドでそれぞれの会員の方が必死に考え工夫に工夫を重ねた成果を、より多くの小児循環器学に携わる会員達に伝えてきたのが、この日本小児循環器学会雑誌です。

これまでの印刷冊子から、循環という動きがより表現できるデジタル技術を駆使できる電子冊子に変更になり、より多彩な情報発信ができるようになりました。

ただ、日本小児循環器学会雑誌の根幹をなすものは、これまでの50年と同様に会員一人一人の皆様の情報発信そのものです。今までの50年に蓄積された知識と経験をもとに、これからの50年という未来に向かってベンチサイドやベッドサイドからの基礎的、臨床的論文を新装開店した「日本小児循環器学会雑誌」にぜひ投稿していただきたいと存じます。

新しい日本小児循環器学会雑誌電子版が、今まで以上に素晴らしい雑誌になるようにすべての会員の皆様と一緒に発展させていただければ幸いです。

編集委員長あいさつ

日本小児循環器学会雑誌の新しいスタート

—— 大きな波及効果が期待されます ——

日本小児循環器学会雑誌は本号より電子ジャーナルとなりました。電子ジャーナルの特徴は、いつでもどこからでもダウンロードして記事を閲覧することができること、小児循環器の診療には不可欠な心エコーや血管造影やカテーテル治療の動画を投稿および閲覧することができること、投稿も電子化で簡単にできるようになること、電子媒体を使って双方向性の情報交換が可能になることなど、これまでの印刷冊子ではできない多くのメリットがあります。もう一つの特徴として、学会経費の大きな部分を占め予算を圧迫していた学会誌の印刷コストを削減することで、その部分をe-learning などの教育システムの充実、英文雑誌の発刊の実現、若い先生がたの国際交流など、学会としての今後の方向性を担う新しい重要な取り組みに予算を充てることができるという大変大きなメリットがあります。一方で、本を手に取ってゆっくりじっくり眺めたり、大事な部分に読者独自のマーキングやコメントを手書きで入れたりという、冊子体ならではの特徴が無くなるのも事実です。そのために年3回印刷媒体のニュースレターを発刊し、学会員のみなさまにアナログ的な情報伝達も行っていく予定にしています。

学会誌の電子化はカルテの電子化と似た部分があり、最初はとまどいますが、慣れると電子ジャーナルの良さと便利さを十分に享受していただけるのではないかと思っております。学会誌の電子化を機会に雑誌が新しく変わるだけでなく、学会活動全般に大きな良い影響が出るものと編集委員一同は確信しております。ご期待いただければと思います。

最後になりますが、電子ジャーナルへの準備に予想以上に時間を要したこと、電子ジャーナル発刊に際して出版社が新しい会社に移行したことから、第1号と第2号を合冊にして3月に発刊せざるを得ませんでした。原稿をご寄稿くださいました先生方、ならびに読者である学会会員のみなさまに、ご不便おかけいたしましたことを編集委員長より深くお詫び申し上げます。

日本小児循環器学会編集委員長
白石　公

日本小児循環器学会雑誌が、完全電子化となりました

http://jpccs.jp/

電子媒体として簡単に論文を閲覧でき、動画の投稿も可能となり、学術集会抄録号ではスマホで演題が検索できるなど、より使いやすい電子雑誌となりました。同時に印刷版のニュースレターを年3回発刊し、みなさまのお手元にお届けします。

冊子体の購入について

冊子体のご購入をご希望の方は、**学会誌ホームページの購入ページ**よりお申し込み下さい。1冊よりお申し込み可能です（定価：2,500円）。

日本小児循環器学会雑誌編集室が移管しました

2015年1月より日本小児循環器学会雑誌編集室が移管となりました。

　また、投稿・査読システムによる電子投稿となりました。

電子投稿先
https://mc.manuscriptcentral.com/pccs
新編集室連絡先
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
(株)国際文献社内
日本小児循環器学会雑誌編集室
TEL：03-5389-6492　FAX：03-3368-2830
E-mail：pccs-edit@bunken.co.jp

編集委員紹介

住友直方

埼玉医科大学国際医療センター　小児心臓科

2007年9月から8年間編集委員をやっております。編集委員長も中西先生、加藤木先生、白石先生と変わり、それとともに編集委員会の編集姿勢も変わってきました。今回、Webを主体とする形式に変更になり、大きな変革だと思います。また以前から念願であった、英文雑誌への刊行も視野に入れて活動を行っております。雑誌は皆さんの投稿がないと成り立ちません。是非多くの投稿をお願いしたいと思います。

市川　肇

国立循環器病研究センター小児心臓外科

これまであまり引用されなかった本誌に本邦の高度な小児循環器診療レベルを反映させ、世界に通用する学術雑誌を目指し白石編集長のもと頑張ります。

河田政明

自治医科大学とちぎ子ども医療センター・
成人先天性心疾患センター　小児・先天性心臓血管外科

数年前から編集委員会の活動に携わる機会をいただき、多くの編集委員・委員長の先生方と接し、意見を交わし学会雑誌の大切さを実感してきました。特に外科医と内科（小児科）医が同じ雑誌を読む機会の貴重さも改めて感じました。また英文業績が重視される中での邦文誌としての本学会雑誌の役割についても考えさせられる機会が多く、同時に論文投稿に際して施設内での充分な検討や推敲、上級医の指導がされていないのではないかと編集委員会で頭を悩ませてきました。また査読についても然りです。著者に（というよりも当学会誌に投稿された論文に）対して親身になり、前向きに、非常にていねいな査読をして下さる先生方が多い一方、投げやりな査読であったり、査読者の選定を疑問に感じる機会にも遭遇してきました。これからも自分の施設の若手を育てるような気持ちで投稿論文に向き合っていくべきであると、この役割は教えてくれているような気がしています。

高橋　健

順天堂大学医学部小児科・思春期科学教室

小児循環器学会雑誌をより良い学術誌にするため、全力を尽くします。その結果、心疾患を持つ小児および成人の患者様のために役立つことを目的としています。

豊原啓子

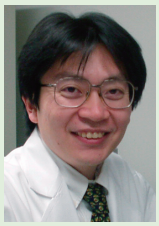
東京女子医科大学　循環器小児科

若い方は、とりあえず投稿してください。論文を書くきっかけになればと思います。

土井庄三郎

東京医科歯科大学大学院　小児・周産期地域医療学

私は平成19年6月から学会雑誌編集委員を担当していますので、早いものでもうすぐ8年になります。学会雑誌の体裁や内容など、この8年ほどで大きく変わってまいりました。そしてついに第31巻1-2号がオンラインジャーナルとして発刊されました。今後は動画なども閲覧できるようになりますので、学会員の皆様も大いに楽しみにしていてください。そして、より多くの素晴らしい原稿を投稿して頂けますよう、よろしくお願い致します。



山岸敬幸

慶應義塾大学医学部小児科

編集室の皆様と一緒に、若手の育成と学会員の皆様の知識のupdateを両立する学会雑誌を編集していきたい。特に、小児循環器学を志す若手がリサーチマインドを持って論文を執筆し、指導医の指導と雑誌の査読を経て、アカデミックに成長することをお手伝いしたい。また、欧米やアジア諸国を意識して、国際的に発信する学会雑誌を目指したい。

学術集会　第3報

第51回 日本小児循環器学会総会・学術集会（第3報）

2015年7月16日(木)～18日(土)の3日間に開催されます、第51回日本小児循環器学会総会・学術集会の会長を務めさせていただくこととなりました。ご推挙頂きました、当学会会員ならびに諸先輩、諸先生方に心より御礼申し上げ、改めまして御挨拶申し上げます。

今回は、梅雨明けの東京を期待しまして、例年よりも1~2週間遅い7月の第3週に開催させて頂く事となりました。場所は、東京港区のお台場にあります、ホテル日航東京と致しました。羽田空港、品川駅、東京駅からもアクセスの良い会場を選びましたので、地方からお越しの先生方にも、少しでも長く討論に御参加頂ければと思っております。

メインテーマは、

Cardiovascular Diseases in the Young
— Looking Ahead to Future Quality Time —
『成人期のQOLを見据えた小児期・若年の心血管病学』

としました。

人生は、胎芽期、胎児期から始まり、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期、さらに成人期、壮年期、そして老年期に至るまで、小児期における生活様式や環境が、遺伝子支配の領域を超えて、その人の人生に密接にかかわってくることが解ってきました。

日々の診療で、こどもの20年後や30年後を見据えた長期的視野に立った管理をし、次の世代に受け渡してゆく。そして成人期循環器病学のさらなる発展に見合う、その要求に十分に答えられる基礎データを次世代に継承してゆく使命が、我々にはあるのではないでしょうか。

それが、成人から老人となるまでのひとつの人生を過ごして行くうえで、世代を超えた医療に結びつく重要な“人生の診療録”Life-long Medical Recordsとなるのではないでしょうか。

本学会は、日本胎児心臓病学会、日本Pediatric Interventional Cardiology学会（JPIC)、日本小児肺循環研究会、日本小児心筋疾患学会、日本小児心電学会、日本小児循環動態研究会、日本成人先天性心疾患学会、日本川崎病学会、日本心臓血管発生研究会、小児心血管分子医学研究会、小児心臓手術手技研究会などに加えて、小児期の新生児・周産期関連学会、日本小児臨床薬理学会、日本小児外科学会、日本移植学会、日本心臓血管外科学会、そして日本小児科学会と密接に関連して充実した学術集会として構築されてきました。

昨年の第50回から新たな第一歩を踏み出した本学会の、次のStageへのLandmarkとして、本学会が成功裏に完結できますよう何卒御協力頂ければ幸いです。

第51回日本小児循環器学会総会・学術集会
会長　佐地　勉
東邦大学医療センター　小児科

I. 学会名・会期・会場・会長

学会名　第51回日本小児循環器学会総会・学術集会
The 51st Annual Meeting of Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery

会　期　2015年7月16日(木)～18日(土)

会　場　ホテル日航東京
〒135-8625 東京都港区台場1-9-1

会　長　佐地　勉
東邦大学医療センター　小児科

II. テーマ

『成人期のQOLを見据えた小児期・若年の心血管病学』
Cardiovascular Diseases in the Young
—Looking Ahead to Future Quality Time—

III. シンポジウム・パネルディスカッション

1）Heterotaxy syndrome治療の最前線
2）新しいシミュレーション医学の小児循環器医療への応用
3）未熟児動脈管開存症の治療
4）小児心不全の治療
5）先天性心疾患の発生と幹細胞医学
6）心筋症の分子メカニズムと治療法
7）小児大動脈弁疾患の治療戦略
8）小児循環器領域における臨床研究と治験の進め方
9）小児心臓移植医療・補助循環
10）不整脈の新しい治療法
11）Interventionに必要な画像診断
12）症例から学ぶフォンタン循環病態：
～フォンタン循環への選択からその破綻への対応～
13）最新のPAH治療—国外の動向—
14）成人先天性疾患に対するカテーテル治療
15）児童生徒の心臓性突然死
16）小児循環器領域と女性医師
17）PA/IVSの治療戦略
これからの小児科・外科のコラボレーション
18）心筋炎診療の新展開
19）成人先天性心疾患の不整脈
20）小児循環器医の社会貢献

IV. 海外招聘講師（予定）

Yuk Law
Seattle Childrens Hospital, USA

Felix Berger
Berlin Heart Center, Germany

Gurleen Sharland
Evelina London Children's Hospital, St. Thomas' Hospital, UK

Robert Tulloh
University Hospitals Bristol, UK

Linda Addonizio
Columbia University, USA

Antonio Amodeo
The hospital Bambino Gesù di Roma, Italy

Emile Bacha
NewYork-Presbyterian/Columbia, USA

Rolf Berger
Beatrix Children's Hospital, UMCG, Groningen, Netherlands

Yih-Shamg Chen
National Taiwan University, Taiwan

Dunbar Ivy
Children's Hospital of Denver, Colorado, USA

Yves d'Udekem
The Royal Children's Hospital, Melbourne, Australia

Hong Gu
Beijing Anzhen Hospital, China

Shelley Miyamoto
Children's Hospital of Denver, Colorado, USA

Barbara Mulder
Academic Medical Center, Amsterdam, Netherlands

Christopher Schreiber
German Heart Center Munich at the Technical University, Germany

Jeffrey A. Towbin
Cincinnati Children's Medical Center, USA

Toni F. Millar
NY Presbyterian Morgan Stanley Children's Hospital, USA

V. 演題申し込み、演題登録開始、演題登録締切り

演題登録は2015年2月7日に終了しました。
多数のご応募ありがとうございました。

VI. プログラム

プログラムは4月中旬に第51回日本小児循環器学会総会・学術集会ホームページ上で発表いたします。
URL: http://www2.convention.co.jp/51jspccs/

VII. 情報交換会のご案内（4月15日予約開始）

今年の情報交換会は学術集会2日目（7月17日(金)）夜7時、東京湾・日の出埠頭から出航して東京湾内を約2時間かけて一周するディナークルージングを予定しています。

コースディナーのおいしい食事に舌鼓みをうち、美しい夜景と楽しい会話を楽しみながら東京湾上の優雅なひと時をお過ごしください。

ライトアップされたレインボーブリッジ、東京タワー、東京スカイツリー、東京ゲートブリッジ等など、東洋湾から眺めるパノラマ夜景をきっと満喫していただけるものと思います。

乗船する「クラシカ」は1989年「シンフォニー」の名称でレストランシップとして運行を開始しました。その後、1989年4月末より「シンフォニークラシカ」と改名しその美しいフォルムでグッドデザイン賞を受賞しています。

乗船日	2015年7月17日(金) 19:00 ～ 21:30 参加予定300名
参加費	事前申し込み　8,000円 当日申し込み　10,000円 （1人分、乗船代、ディナーコース、税・サービス料含む）
申し込み受付	2015年4月15日より 第51回学術集会のホームページで申し込めます。 申し込みをされた方に乗船引換券をお送りいたします。

VIII. 総会、学術集会に関するお問い合わせ先

1. 運営準備室
日本コンベンションサービス株式会社
〒100-0013　東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル14階
TEL：03-3508-1214　　FAX：03-3508-1302
E-mail：51jspccs@convention.co.jp

学会事務局
東邦大学医療センター大森病院　小児科学講座
〒143-8541　東京都大田区大森西6-11-1

2. ホームページ
第51回日本小児循環器学会総会・学術集会
http://www2.convention.co.jp/51jspccs/

シンフォニークラシカ
定員/450名、3階建て
全長/70メートル
全幅/10.5メートル
総トン数/2,618トン

学会予定・分科会予定・専門医関連

学会予定

第79回日本循環器学会学術集会
日時：2015年4月24日(金)～4月26日(日)
会場：大阪国際会議場、ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター他
会長：小川　久雄
熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学 教授
国立循環器病研究センター 副院長

第51回日本小児循環器学会総会・学術集会
日時：2015年7月16日(木)～18日(土)
会場：ホテル日航東京（東京）
会長：佐地　勉
東邦大学医療センター大森病院

第52回日本小児循環器学会総会・学術集会
日時：2016年7月6日(水)～8日(金)
会場：東京ドームホテル（東京）
会長：小川　俊一
日本医科大学

第63回日本心臓病学会学術集会
日時：2015年9月18日(金)～9月20日(日)
会場：パシフィコ横浜
会長：山科　章
東京医科大学循環器内科

第68回日本胸部外科学会学術集会
日時：2015年10月17日(土)～10月20日(火)
会場：神戸ポートピアホテル、神戸国際展示場、神戸国際会議場
会長：大北　裕
神戸大学大学院医学系研究科 外科学講座
心臓血管外科学研究分野

分科会予定

第15回小児心臓手術手技研究会
日時：2015年7月16日(木)
会場：ホテル日航東京（東京）

第16回小児心血管分子医学研究会
日時：2015年7月16日(木)
会場：ホテル日航東京（東京）

第35回日本小児循環動態研究会
日時：2015年10月24日(土)～25日(日)
会場：千葉市文化センター（千葉）

第24回日本小児心筋疾患学会
日時：2015年10月24日
会場：大阪国際会議場

第20回日本小児心電学会
日時：2015年11月27日(金)～28日(土)
会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」（静岡）

専門医関連

第6期小児循環器専門医試験
日時：2015年11月1日(日)
会場：東京駅周辺
※受験案内の学会HPへの掲示および申し込み受付開始は5月中旬予定です。

専門医更新について
2011年4月1日付で専門医に認定された先生（第1期専門医認定者）は、本年更新対象です。なお、**受付期間に変更**がございますのでご注意下さい。
更新受付期間：**2015年8月1日(土)～10月31日(土)**
当日消印有効
※対象の先生には5月中にご案内を郵送致しますので、必ずご確認下さい。

専門医修練施設・施設群、学会が認めるその他の研究会・学会等の新規・更新受付
2016年4月1日付認定の専門医修練施設・施設群、学会が認めるその他の研究会・学会の新規申請は5月中旬より受付開始、7月31日(金)締切です。詳しくは学会HPをご覧下さい。
また、2016年3月31日付で認定が終了となる専門医修練施設・修練施設群は更新が必要です。対象施設の指導責任者の先生には5月中にご案内を郵送致しますので、必ずご確認下さい。

修練施設・施設群年次報告のお願い
修練施設・修練施設群内修練施設の指導責任者は、年次報告の提出が義務付けられています。5月中に郵送・メールにて提出のご案内をお送り致しますので、ご提出頂けますようお願い致します。
※WEB上でのご提出となります。
8月31日(月)締切予定。

事務局からのお知らせ

各種学会賞募集について

YIA賞、Case Report Award、Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞を募集しております。

※2015年4月30日(木)　必着

※各賞について詳しくは学会HPのPick UPコーナーよりご確認下さい。

総会委任状ご提出のお願い

2015年7月17日(金)に2015年度総会が開催される予定です。総会の成立には社員総数（正会員、名誉会員、特別会員）の50%以上を満たす出席者・委任状の提出が必要です。

5月にお送り致します年会費振込取扱票に総会出欠連絡欄・委任状欄がございますので、必ずご記入の上、お早目にお振込頂けますようお願い申し上げます。

評議員立候補受付について

定款第20条および定款施行細則第8条に則り、評議員立候補申請を【5月15日(金)まで】受付致します。

申請条件は以下の通りです。

(1) 小児循環器学に造詣が深いこと
(2) 本会において活発な活動を行っていること
(3) 引き続き7年以上本会の正会員であること
(4) 日本循環器学会会員または日本心臓病学会会員であること

また、申請方法は以下の通りです。

(1) 本会評議員2名以上連記の推薦を要する。
(2) 略歴、小児循環器学に関する主要業績目録を通常総会の2か月前までに理事長に提出する。

WEB会員専用ページ

［会員の皆様へ＞各種申請用紙＞評議員立候補申請書・推薦書］

地方会新規受付・更新受付について

2016年4月1日付認定の地方会新規受付および2016年3月31日で認定終了となる地方会の更新受付のご案内は、5月中に学会HPへ掲載予定です。

WEB会員専用ページ

［分科会・地方会＞地方会＞募集案内または更新申請案内］

ご所属・ご連絡先の変更について
（会員情報の確認・変更ページをご活用下さい）

ご所属やご連絡先（メールアドレスなど）が変更となる場合は学会HPの「会員情報の確認・変更ページ」より登録情報の修正をお願い致します。

WEB一般ページ

［入会変更案内＞会員情報の変更・退会］

WEB会員専用ページ

［会員情報の確認・変更（画面右端中央）］

なお、「会員情報の確認・変更ページ」ログインのためのID（会員番号10桁）とPWは昨年5月に年会費請求書を発行した際に書面にてお送りしております。

また、昨年5月以降に入会されました場合は、請求書の右上に記載がございますのでご確認ください。

※「会員情報の確認・変更ページ」ログインID（会員番号）とPWが不明な場合は、学会事務局までメールにてお問い合わせください。

※「会員専用ページ」は従来通りUMIN-IDとPWでログイン可能です。入会時にUMIN-IDをご申請頂いていない先生は学会事務局までメールにてUMIN-IDをご連絡下さい。

※UMIN-IDについて（ID取得方法、UMINのPWを紛失された場合）はこちらよりご確認下さい。
http://www.umin.ac.jp/

教育動画コンテンツ配信のお知らせ

この度、日本小児循環器学会では教育動画コンテンツをオンラインで配信する運びとなりました。動画配信第1弾として、昨夏に開催されました「第11回教育セミナー」の講演をオンラインで視聴できます。2015年3月31日にメールにてお送りしましたご案内に沿って、ぜひご覧ください。

※視聴にはm3.comIDの登録が必要です。

※メールが届いていない場合は、会員名と確実に連絡の取れるメールアドレスを学会事務局までご連絡下さい。

日本小児循環器学会雑誌　第31巻第1-2号

特　集　日本小児循環器学会第11回教育セミナーによせて

doi: 10.9794/jspccs.31.3

われわれが小児循環器に興味を持った30年以上も前，胎児の心エコーをみること，80歳の年長者にAmplatzer septal occluderによる治療を行うことが，小児科医の仕事になるとは夢にも思いませんでした．しかし，小児循環器領域における近年の進歩は著しく，3DCT，MRI検査など10年少し前に驚いた内容さえ，今や日常診療の一部になっています．また，小児循環器学会の分科会が10を数えるまでになったように，小児循環器領域も多くの専門領域に細分化され，若い医師が学ぶべきことは増えています．確かに細分化することにより，学問・研究はより深くなりました．しかしながら，臨床現場を振り返ってみる時，「一人の命を救う」ために，いかに多くの知識と経験（そして熱意）が必要か，感じた医師は少なくないでしょう．ある特定領域の専門家だけで救命できる状況は少なく，多くの知識，経験が統合されて初めて，一人の患者を救命することが可能になるのです．

分化と統合．細分化して進んだ医学・医療というものを，もう一度ひとつにまとめることにより，新たに見えてくるものがあるはずです．それは，多方面からみること，違った目でみることであり，チーム医療の意味がそこにあるように思います．そして，重症例を救命する周産期から新生児期にかけての「現場」は，その典型的な場ではないでしょうか．すなわち，産科，新生児科との連携，救命処置，画像診断，カテーテル治療，集中医療，そして心臓血管外科との連携と緊急・準緊急手術等々．これこそ「統合」という言葉にふさわしい，situationだと感じています．

日本小児循環器学会教育セッションは，小児循環器学の基礎から最新の知識までを学ぶ「生涯教育の場」を提供するために企画されてきました．今回は，前述した理由から，以下のテーマで，5名の先生方に講演をお願いいたしました．

テーマ：「生まれくる／生まれ来たこの子を救うために」

①「胎児診断と治療」娩出時期は？胎児治療は？
　国立循環器病研究センター周産期・婦人科　吉松 淳先生

②「良い手術を行うために必要な画像診断のPOINT」
　静岡県立こども病院循環器科　金 成海先生

③「新生児期に必要なカテーテル治療」
　国立循環器病研究センター小児循環器科　北野正尚先生

④「新生児期集中管理：重症疾患の手術まで」
　長野県立こども病院小児集中治療科　松井彦郎先生

⑤「手術術式：緊急・準緊急姑息術のPoint」
　兵庫県立こども病院心臓血管外科　大嶋義博先生

参加いただいた先生方（本特集の読者となっていただいた先生方）には，これらの講演内容をもとに，さまざまな場面を想定，シミュレーションしていただき，明日からの診療に役立てていただければ幸いです．

鎌田 政博
日本小児循環器学会教育委員会委員長
広島市民病院循環器小児科

教育セミナー　「胎児診断と治療」娩出時期は？胎児治療は？

doi: 10.9794/jspccs.31.4

胎児診断には超音波検査が大きな役割を果たすが，検査の目的は行う時期によって異なる．胎児心臓超音波検査は形態の評価として“スクリーニング”と“診断”との2段階に分けて行われる．胎児超音波検査は単に病名を診断することにとどまらず，胎内での血行動態の評価から分娩後の血行動態の予測，心機能の評価，さらに心外病変の有無など多岐にわたる．その所見で胎内での状態を評価し，出生後の状態を予測する．いくつかの報告では，このような出生前の診断は必ずしも予後の向上につながっていない．今後さらに精度の高い“スクリーニング”と“診断”を実現し，予後の向上を図る必要がある．胎児治療においては，適応のみならず，治療開始および終了の決定なども厳格に行われなくてはならない．

吉松 淳
国立循環器病研究センター周産期・婦人科部

教育セミナー　新生児期に必要なカテーテル治療

doi: 10.9794/jspccs.31.9

ロープロファイルな治療器具が開発されたことで，新生児においても様々なカテーテル治療が施行されるようになった．本稿では，1. 通常の心房中隔裂開術が困難な場合のその方法，2. 長期経過から再検討した心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖に対するカテーテル的弁形成術，3. 左心低形成症候群における安全な動脈管ステント留置術の3項目に関して，臨床の場で役立つように解説した．新生児のカテーテル治療は外科治療よりも低侵襲で遂行できるが，重篤な合併症が起こりえるので，その合併症と対応策を熟知してから治療に臨む必要がある．

北野 正尚
国立循環器病研究センター小児循環器科

教育セミナー　新生児期集中管理：重症疾患の手術まで

doi: 10.9794/jspccs.31.20

新生児期の重症先天性心疾患を適切に管理することは，小児医療向上の重要な課題の一つである．循環管理には心収縮力・前負荷・後負荷・心拍数に規定される心拍出量と，流出路大血管形態・血管抵抗に規定される肺体血流バランス，合わせて6要素を評価しながら行う必要がある．新生児期の循環管理では，肺血流増加によるショックを事前に予防し，安定した循環動態で手術につなげることが主たる目的であり，血行動態変化を事前に予測して管理し，循環管理には速やかな集中治療を導入することが必要とされる．周産期の重症先天性疾患は，疾病による循環異常だけでなく，周産期特有の全身生理の理解と外科的治療選択の判断が必要となり，総合的に全身管理を施行することが重要である．新生児期の重症先天性心疾患の術前管理にゴールデンマニュアルはない．正確な血行動態の評価のもと適切に管理を行い，安定した血行動態で外科的治療にのぞむことが重要である．

松井 彦郎
長野県立こども病院小児集中治療科

教育セミナー　手術術式：緊急・準緊急姑息術のPoint

doi: 10.9794/jspccs.31.25

姑息手術の多くは，肺血流調整を目的に行われ，特に肺血管抵抗の高い新生児期に適応される．修復術が低年齢化し，早期の一期的修復術が進んだ現在でも，体・肺動脈短絡術，肺動脈絞扼術の適応が見直され，かつ多様化している．体外循環を用いた修復術や姑息術がより安全に行われるようになった一方で，新生児期の体外循環を回避し，周術期，遠隔成績のさらなる成績向上のため，両側肺動脈絞扼術のように復活した術式もある．肺血管抵抗が変動する周術期に，いかに適切な肺血流調整が行えるかが重要となる．肺動脈絞扼術においては，なるべく正中切開アプローチを選択し，術中心表面エコーを用いて，適切な肺動脈絞扼部位や絞扼度の決定を行う．体肺動脈短絡術の周術期管理では，複雑な病態把握が必要である．特に単心室の血行動態を理解し，動脈血酸素飽和度に加え，混合静脈血酸素飽和度や近赤外光法など，様々な方法で体・肺血流バランスをモニターすることが重要である．

大嶋 義博
兵庫県立こども病院心臓血管外科

Review 日本Pediatric Interventional Cardiology（JPIC）学会データベースの構築

doi: 10.9794/jspccs.31.30

日本Pediatric Interventional Cardiology（JPIC）学会において15年以上にわたり継続されてきた，カテーテル治療の手技・件数・合併症に関する全国アンケート集計は，オンライン登録によるデータベースに移行することとなった．先天性心疾患および小児期頻拍性不整脈に対するあらゆるカテーテル治療手技と合併症への汎用性，近年進歩の著しい他の関連データベースとの連携，倫理的配慮，公的・学術的データ利用への機能など多くの特徴を有し，2013年1月登録分より実運用開始となった．今後さらなる普及と発展が見込まれている．

金 成海
静岡県立こども病院
循環器科

松井 彦郎
長野県立こども病院
小児集中治療科

犬塚 亮
東京大学医学部附属病院
小児科

芳本 潤
静岡県立こども病院
循環器科

宮田 裕章
東京大学大学院
医学系研究科医療品質学講座

小野 安生
静岡県立こども病院
循環器科

矢崎 諭
国立循環器病研究センター
小児循環器科

大月 審一
岡山大学病院
小児循環器科

小林 俊樹
埼玉医科大学国際医療センター
小児心臓科

富田 英
昭和大学横浜市北部病院
循環器センター

小児循環器専門医のための総説シリーズ　19

Review 代表的な手術法　その工夫と問題点

doi: 10.9794/jspccs.31.39

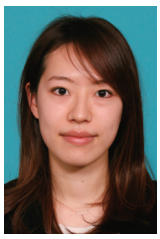
先天心疾患の外科治療成績は急性期，遠隔期ともにこの20年間に更なる飛躍を遂げた．これは術前診断能力の向上のみならず，手術手技の進歩，体外循環技術，周術期管理の発展に寄与することが多い．本稿では，小児循環器専門医が知っておくべき手術法，注意すべき術後合併症等に関して心臓外科医の立場から解説する．

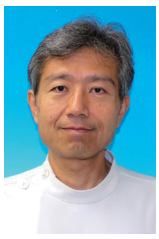
坂本 貴彦
東京女子医科大学心臓病センター心臓血管外科

原　著 小，中学生の先天性心疾患患児の疾患理解
—患児の「年齢」と疾患の「重症度」による疾患理解の比較—

doi: 10.9794/jspccs.31.52

背景：成人科への移行に向けて，幼い頃から患児本人が疾患を理解することは重要であるが，患児の疾患理解についてはよく検討されていない．患児の「年齢」や疾患の「重症度」による疾患理解の特徴を比較した．
方法：A県内の小児専門病院循環器科に通院中の小学1年生から中学3年生の先天性心疾患患児28名を対象に，半構造化面接を行った．
結果：運動制限，薬の頻度・効果，感染性心内膜炎の予防の理解は，患児の「年齢」や疾患の「重症度」による差が見られなかった．しかし，病名，薬の名称，受診の理由，次回の受診日の理解では，患児の「年齢」による差が見られ，年齢が上がると共に，理解している患児が増加し，薬の管理の主体は「親」から「患児」へと移行していた．心臓の欠陥の理解では，疾患の「重症度」による差が見られ，軽度の患児の方が具体的に理解していた．
結論：医療者は，患児に疾患説明を行う際，認知的な発達段階や疾患の構造の複雑さを考慮して説明を行うことが重要である．





久保 瑶子
東京学芸大学大学院
連合学校教育学研究科・博士課程

中島 弘道
千葉県こども病院循環器科

中澤 潤
千葉大学・教育学部

症例報告

小児開心術症例の術後劇症悪性高熱症の１例

doi: 10.9794/jspccs.31.64

悪性高熱症は，揮発性吸入麻酔薬や脱分極性筋弛緩薬が誘因と考えられ，周術期における致命的合併症の一つとされている．我々は，最近小児開心術症例で術後劇症悪性高熱症を経験したので，文献的考察をふまえて報告する．症例は11ヶ月男児，診断は心室中隔欠損症，Down症候群である．生後21日，肺動脈絞扼術と動脈管結紮術を施行した．今回根治術として，心室中隔欠損パッチ閉鎖と肺動脈絞扼解除を施行した．術後より40度の高熱が持続したが，循環動態は安定していた．第2病日に急激に右心不全を呈し，胸骨開放で小康をえた．第3病日に42度まで体温が上昇しCPKなどの上昇が認められ悪性高熱症と高度に疑い，ダントロレンの投与を開始し，マットを使用して体温調節を行った．第4病日より解熱傾向となり，特に後遺症を残さず救命できた．悪性高熱は，麻酔中の最高体温と麻酔中体温上昇速度を指標に劇症型と亜型に分けられ，さらに麻酔後に症状が起こる術後型に分類されている．本症例は，術後劇症悪性高熱症と考えられた．術後悪性高熱は，現在でも死亡率が12.2%と高く，心臓手術後の周術期管理で注意が必要である．

近田 正英
聖マリアンナ医科大学心臓血管外科

小野 裕國
聖マリアンナ医科大学
心臓血管外科

宮入 剛
聖マリアンナ医科大学
心臓血管外科

鈴木 寛俊
聖マリアンナ医科大学
心臓血管外科

嵯峨根 正展
聖マリアンナ医科大学
心臓血管外科

北 翔太
聖マリアンナ医科大学
心臓血管外科

都築 慶光
聖マリアンナ医科大学
小児科

麻生 健太郎
聖マリアンナ医科大学
小児科

JSPCCS News Letter

発　行　：特定非営利活動法人　日本小児循環器学会
事務局　：日本小児循環器学会事務局
〒102–0074　東京都千代田区九段南 2–1–30
イタリア文化会館ビル8F　株式会社メディカルトリビューン内
TEL　：03–3239–7264
FAX　：03–3239–7225
E-mail　：jspccs@medical-tribune.co.jp
URL　：http://jspccs.umin.ac.jp